

下関市公共交通整備検討委員会（第6回）

議 事 録

平成29年10月30日（月）13時30～

下関市役所本庁舎新館5階大会議室

1 開会

- ・配布資料の確認
- ・今年度委員の紹介

2 会長挨拶

- ・会長挨拶
- ・出席人数と会議成立の報告
- ・議事進行の説明

3 議事

（1）本日の審議事項について

- ・事務局が本日の審議事項について説明

会 長：本日は計画に位置づける必要施策を決めていくという非常に重要な部分となっており、それぞれのお立場から積極的なご意見をいただきたい。

また、この計画が策定された後には、市が中心となり、関係機関と連携しながら各施策を進めていくというようになるため、各施策が実現できるようにぜひ前向きな審議をお願いしたい。

（2）必要施策の整理と実施計画（案）について

- ・事務局が必要施策の整理と実施計画（案）について説明

会 長：必要施策として選定された施策は、資料の中で示されている。また各施策のスケジュールと実施主体は記載のとおりとなっている。また、必要施策について、前回の委員会の意見を踏まえて追加したものが1件、それから事務局からの提案ということで1件、合わせて2件を追加した形になっている。

（3）必要施策に対する具体的な取組みの概要について

- ・事務局が必要施策に対する具体的な取組み「鉄道・路線バスを軸とした公共交通ネットワークの構築」の概要について説明

会 長 : ただいまの部分では施策 A - 5 - 1、LRT あるいは BRT につきまして
は今回の計画には位置づけがないが、それ以外の施策については位置
づけることになっている。

A 委員 : 今資料の 11 ページで、豊浦から安岡、川中ゾーンというのが 1 つあ
り、その次に菊川、小月ゾーンというのがある。豊北から豊浦、あ
るいは豊北から豊田というような路線がないみたいだが、豊北の方
はどこに位置づけられているのか。

会 長 : 11 ページの図は、路線ではなく人の流動量になっている。線が無い
所というのは 1 日 2,000 トリップ未満のところ、要するに流動が
非常に少ないため線の記入が無い。路線が無い訳ではなくて、移動
している方が少ないという意味である。

B 委員 : 17 ページからの資料で、駅へのアクセス道路の整備ということで、
この方向性には歩行環境や自転車の環境整備ということで書かれて
いる。その背景は歩道や自転車道の整備が必要だというアンケート
結果を元に出ていると思うが、アンケートの対象としている人がよ
くわからない。もし鉄道を利用されている人へのアンケートという
ことであれば正しいが、現在鉄道使っていない人が駅へのアクセス
道路をもっと良くしてほしいということになると、恐らく駐車場に
ついての話になるので、多額の費用等が大きな課題ということはある
が、駐車場も併せて踏み込むというのはどうか。ただ自転車なり
歩道の整備をきちんとすることは大事だと思うし、道路もきれいにな
ると思う。道路がきれいになると今まで鉄道を利用していない人
や、バスを利用していない人も車で行きたくなる。高齢化が進むと
今まで下関まで車では来られなかったが、今度近くの駅から電車に
乗ろうかみたいなことも想定できるが、これまでの検討の中で駐車
場あたりの議論というのは何かあったのか。

会 長 : 今のご意見は、パークアンドライドの促進という所で後から出てく
るが、それではないか。今、車で行ってしまっている方に途中で鉄
道に乗り換えてもらうという話も入ってくるが、後で入れるのがい
いのか、どちらに入れるのが良いのか。

B 委員 : 歩道と自転車道の整備だけで終わって良いのか。当然大きな課題が
あるわけで、すぐには解決できないと思うが、やはりそこが大きい
のではないかとということで提案させていただいた。

会 長 : 自動車から公共交通に転換を図るところでパークアンドライ
ド促進という施策があるが、アクセスと考えればこちらの方が良い
かもしれない。このあたりは事務局としては何か考えはあるか。

事務局 : 駅へのアクセスについては、徒歩及び自転車が多い駅を挙げさせて
いただいている。それについては車に比べて、歩行者なり自転車の
利用者が多いということで、歩道や自転車道の整備が必要ではない
かと考えている。

会 長 : このアンケートは鉄道利用者だけではなく、市民全体に対するアン
ケートか。

事務局 : そのとおりである。

会 長 : アクセス道路の話が出たが、既に道路事業に関しては各方面で検討
いただいていると思うが、ここにアンケートの結果であるように、
駅へのアクセス性が不十分だというようなことが挙がっており、こ
ういう観点も入れて整備なりアクセス整備を検討いただければと思
う。

C 委員 : これで直ちに道路事業が、アクセス道路の整備につながるというも
のではないと思うが、いろんな施策、いろんな切り口で整備してい
るため、地元要望等も色々あり、今後事業展開していく中での参考
にはさせていただきたい。

D 委員 : 駅への車によるアクセスであれば、もし今後そういう必要性が出れ
ば、その中でまた対応を考えていくということになるかと思う。

B 委員 : 12 ページのところに乗り継ぎ拠点の写があるが、これを地図上で
示した図はないのか。例えばどこが乗り継ぎ拠点として接点とな
るかといった、バス路線の路線図を示してもらえるとイメージしやす
いと思う。

事務局 : 次回までにお示しする。

E 委員 : 12 ページの乗り換えのところについて、乗り継ぎをすることによ
って利用者の方々の料金が高くなる。この分をどうかするとしたら、
IC カードを使うのか、例えば市が補助金を出すとか、そういうこと
になろうと思う。働く者としては、できれば IC 化した方が簡単に
乗り継いでいただける。運転手が料金表を見ながら確認すると遅く
なるため、できれば乗り継ぎをされるのであれば、IC 化も並行して
進めていただければと思う。

会 長 : まさにご指摘のとおり。5 ページのところに課題ということで乗り継
ぎ割引、あるいは IC カードの導入検討というのが挙がっている。今、
ご指摘いただいたように乗り継ぎで初乗り料金を 2 回支払う、とい
うわけにはいかないと思うため、これを導入しようと思えばそのあ
たりの検討は不可欠かと考えている。

・事務局が必要施策に対する具体的な取組み 「 市民の暮らしを支える生活交

通体系の構築」の概要について説明

会 長 : 2 本目の柱の部分となるが、この部分では必要施策(案)のすべての施策を計画に位置づけるというようになっている。

主に旧 4 町の方の意見を反映させていただいているかと思うが、一方で旧市内にも公共交通不便地域というのは存在しており、そういったところに対してのアプローチも必要になってくるかと思う。実施主体が下関市ということになっているため、しっかりと取組んでいただければと考えている。

・事務局が必要施策に対する具体的な取組み「 みんなが安全・安心かつ快適に外出できる交通環境の形成」の概要について説明

会 長 : この部分では C - 2 - 2、サイクルバス、C - 2 - 4、サイクルトレインは計画に位置づけないが、それ以外の部分については計画に位置づけることになっている。

追加された施策ということでバスのフリー乗降制度とバスの貨客混載運行という話があるが、下関でも関係機関の調整さえできれば制度的には実施が可能なのか。

F 委員 : バスのフリー乗降制度の話はどちらかという警察の判断になる。交通量が少なく、バス停以外の場所で降りても安全であれば、警察との調整により可能となる。バスの停留所は設けてもらうが、バス停の手前で降りれば、料金は降りた場所の次のバス停までの金額となる。

それから、貨客混載については、現在の乗り合いバスでも 350kg までであれば可能である。ただし 350kg を超えて運ぶ場合は、路線バス事業者が貨物自動車運送事業の許可を取れば、トラックを使わずに乗り合いバスで運ぶことができる。

それから、下関市の場合は生活バスと言われている自家用有償旅客運送については、以前はできなかったが、通達改正により、こういった協議会の場で、生活バスについては荷物を運んでも良いというふうに承認されれば 350kg までの荷物を運ぶことができる。

G 委員 : 先般、この会議で、昨今下関駅等で、インバウンドの個人客のお客さんがバスに乗られるのに戸惑っているというお話をさせていただいたと思うが、例えば下関駅や新下関駅等拠点性の高い所だけでも、多言語対応の看板等を設置するのは難しいものなのか。

会 長 : 最近よく 4 カ国語表記の看板が整備されている所も多いが、そういう対応というのはどうなのか。

事務局 : インバウンド対応については観光部局が、外国語表記の対応等を行っており、市内の主要な観光施設等での多言語表記についても取り組んでいると思う。

会長 : それに加えて、できれば交通施設でもということだが。

事務局 : 主要な所に多言語の対応というところは、今後検討して前向きに対応するように考えさせてもらう。

会長 : 関連して、ここに観光循環バスの導入のような話が挙がっているが何か意見はあるか。

G委員 : クルーズ船が来た時に、バスで駐車場がいっぱいというようなことがあったりするため、その補助手段としてそういうのも活用できればかなり混雑緩和にも役立つと感じている。

H委員 : C-2-4の49ページの、観光客に特化した移動支援という絵があるが、豊田には狗留孫山の修禅寺がある。これを菊川から豊田、それから国道491号が走っており、整備が1カ所で5年もかかっているところもあるし、もう30年も40年も前からこの整備はやられている。今491号についてはこういった赤線で書くと、観光協会でもいろいろ問題になったが、なかなか通りにくい所が道路に書いてある。観光地図に入れたということで、案内書に菊川から行ってくださいとか、みのりの丘公園から行ってくださいといっても、途中が非常に狭いというような状態が何十年も続いている。したがって、特に国道については道路整備をきちんとやらしてもらわなければいけないと思っているが、そのことがあまり書いていないので、そういったことも取り入れてもらいたい。

今C-4-1のレンタサイクルの利便向上ということ、何もこのページに書いておらず、これは41ページのサイクルタウン下関構想というのがあるが、全体的に今サイクリングでぐるぐる回るイベントがあるだけで、それ以上のことは何もイベントがない。まちづくり協議会の中でいろいろな話があって、今のままで続けていたらじり貧になるので、「観光開発の1つとして豊田町をサイクルタウンにしよう」ということがまちづくり協議会で持ち上がっている。今度12月に勉強に瀬戸大橋の方に行ってこようと思っている。

そういった中で、下関全体で考えてもらいたいのは、例えば豊田町だけでそんなことを考え、やっても何もならない。豊田と菊川、それから豊田と豊北、豊田と美祢とか、豊田と長門とか、そういった大きな輪の中の1つとして考えていけないといけないので、そういったことを取り上げてもらわないと、サイクリングロードマップの作成とか

書いてあるが、実際に誰がやるのか、行政がやるのか、前向きにそういったことを行政が受け入れる準備がないと、なかなか市民、町民が一生懸命考えてやっても前には進まない。

会 長 : 私も初めて行ったときに、車で国道の方に行ってしまうてえらい目に遭ったことがある。国道の整備は申し訳ないが、この委員会は公共交通の整備ということになっているため、ここに反映させることは難しい。

それから、もう 1 点、サイクルタウンの関係の方はこちらにも関連してくる部分があるかと思うので、いただいたご意見をもとに反映できる部分を反映させていくということで対応させていただければと思う。

駅周辺でのイベント、あるいは駅でのイベントというのが載っているが、現時点でこういうイベントをやっているとか、あるいはこれからそういうのはもっと拡大していくというような考えはあるのか、少し情報提供いただければと思う。

B 委員 : 46 ページに書いてあるヤマサチというのは、今、全国展開しているかという勢いで、まずこれは下関駅で今年の 3 月 18、19 日に人工地盤でやらせていただいた。駅周りのイベントということで言うと、エキマチ下関でランチタイムコンサートをやったり、年に何回か駅前で駅の何十年記念であるとか、それから今新たな観光列車を走らせることによって、それに対する出発のイベントがあったり、それぞれの運行のタイミングごとの盛り上げというのは市町と一緒にやらせてもらったり、あとはトワイライト瑞風も毎週末に来て、幼稚園児とか、一日駅長さんということをやりながら市民の人にそういうものを知っていただくであるとか、赤間神宮と一緒にやらせてもらったこともある。交流人口をいかに増やすかということが目的であるため、現在は山口ディスティネーションキャンペーンということで、JR6 社が山口県に集客しようという大型観光キャンペーンを行っている。その中でサイクルトレインの話であったり、レンタサイクルの話であったり、レンタカーと連携していい切符を作ったり、それからバスの周遊観光を今回の期間だけ特別にというのを作ったり、いろんなことをやっている。

個々にいろんなものがあるが、一番大きなことは、いかに山口県の魅力を知っていただくか。そこに行くまでの交通手段は何か、二次交通は何かということなので、例えば湯本温泉に行くとか、今のように角島や豊田の方に行くとか、ほたる祭りにどうやって行ったら良いかと

いうところまでの情報をご提供すれば多くの方に知っていただき、足を運んでいただけるようになると思う。今そういうキャンペーンを例えば12月末まで行っているところである。

色々なご意見があると思うが、そういうことをやっているということをごんごんに外に我々はアピールをしていきたい。例えば角島がありますよってというのは誰もが知っている話だが、そこまでどうやって行くか、こういうネットワークを作りましたよ、今実施期間中なので特別なこういうルートがあります、バスがあります、タクシーがあります、自転車も、臨時列車も走らせますみたいな情報を、どう発信していくかというのがすごくもどかしくて、せっかくいいイベントを作ってもお客さんが来られない。例えば電車の工場があるが、その車両所公開をやると言っても、実は我々はもっと来てほしいが、数千人ぐらいの方しかお越しにならない。

魅力はたくさんあり、見るものもたくさんあり、交通手段も意外と作ってあるので、それをうまく発信をしていければいいかと思っている。今から年末に向けてもっと色々なものを作っていききたいと思う。一過性のイベントも大事だが、少し足の長いイベントもやっているため、いろんな案内所に行くと山口県をPRできるパンフレットをもしよければ手に取っていただけるようにしていくことが役割だと思っている。

会 長 : 実施されるのは交通事業者だったり商業関係のほうだったりするかもしれないが、情報発信は市の方でも連携、あるいは支援ができる部分があるかと思うので、その辺積極的に取組んでいただければと思う。

・事務局が必要施策に対する具体的な取組み「自動車依存から公共交通利用への転換を図るための活動の実施」の概要について説明

会 長 : これです事務局から実施計画(案)全体を説明していただいたことになるが、ただいまご説明いただいた4本目の柱の部分は、自動車から公共交通への転換のための意識啓発あるいはイベントの実施ということが中心となっている。現状こういったものを行っているとか、あるいはこれからこういうことをやろうと考えているとか、そういったことで、もし何かあれば情報提供いただければと思う。

I 委員 : ここ何年か、菊川町の産業祭に呼んでもらい、実際にバスも持って行き、見てもらおうという乗り方教室もやっている。
唐戸、長門温泉からゆめシティの方にも路線が走ることになったので、

実際のバスを持って行って、バスの中に乗ってもらって見てもらって、ついでに乗り方も教えるというようなこともやっている。

それから、小学生とか社会科見学でうちの営業所に来られた際に、乗り方等の質問を受けたり、実際にバスの中に乗ってもらったり、洗車機の様子を見学してもらったりしている。

会 長 : 恐らく意識啓発というのはかなり重要な部分になってくるかと思うため、交通事業者の取組みにも期待したいと思うし、支援できる部分は市の方で支援してもらおうということになるかと思う。

F 委員 : 資料 の 4 ページの D - 3 について、公共に関するイベントやキャンペーンの実施ということで、今回交通事業者が入っているが、関係する資料 の 55 ページのところを見ると、アンケートをして「なくなっても困らない」という市民の方が 2 割ぐらいいたというがあるので、市民の方の参加意識を高めるために実施主体のところ地域住民というのを加えるのはどうか。

事務局 : ただいまいただきましたご意見を参考にして入れたいと思う。

F 委員 : 52 ページのところ、自動車の移動ということで施策の方にパーク & ライドのさらなる促進と書いてあるが、10 代の方が親御さんに乗せてもらって駅までというのは多分高校生が行っているのでしょうか、この中には多分バスに乗れる人でも親御さんが乗せていっているのではないかと思われる部分が小月などは結構ある。公共交通網の計画を作るのに自動車による送迎のさらなる促進というのはちょっと抵抗があるため、バス利用の促進ということでバスから鉄道への乗り換えという発想にできないのか。

会 長 : 中心部まで車で行かれると困るので、途中で電車に乗り換えていただくというのも必要な施策だと思う。ご指摘いただいたように、バスで行けるのに車の方が便利だからということで駅まで車で行ってしまうというのもあるし、両方の観点が必要だと思うが、これは計画の方でうまく整理することは可能なのか。事務局の方で何かこれから整備するみたいな方向性を打ち出していただくことは可能なのか。

事務局 : 我々としてはバス事業者が運行するバスに乗って欲しいという思いはあるが、あくまで全部バスで、自家用車は駄目だということだけは申し上げてさせていただきたい。バスも大事だが、当然自動車できちんと駅まで行ってくれるという方も大事であるため、利用者の方が一方の選択肢しかないというわけではなく、きちんと両方の選択ができるということが大事だと思ってい

るため、鉄道も大事、バスも大事、アクセスも両方があって良く、かつ市民が選択できるようになっていることが重要であるという考えのもとで計画を立てていくということをご理解いただければと思う。

(4) 今後の委員会の進め方について

- ・事務局が今後の委員会の進め方について説明

4 閉会

以上